

■「惣大行事日記（文久三年）」より「鹿島丹下の帰職運動」

9. 文久三年十二月二十四日 江戸より吉報が届く

廿四日 晴 嚴冬

昨夜吉夢アリ。旅亭之様ナル座敷ニ而、床ノ間ノ軸物富士ノ画ヲ取下ロシ見候処、何か賛ノ詞アリ、不覺。

下生政太来。拝借之内意也。

一、暮六半時飛脚五助弟、栄兵衛ト申もの、中町之もの也、右江戸只今下着之由ニ而来。五助方書面持参。当廿一日御奉行所方此方願伺筋之義御沙汰ニ相成、右ニ付猿田由膳方立飛脚可致処、幸中町名主庄三郎義帰村ニ付、庄三郎方へ表向之書面猿田方差下シ、然處此節御関所殊之外六ヶ敷候間、庄三郎義存之外手間取ニ付難斗、依而五助方態々弟差下シ吉左右申送り候趣之書面也。廿二日明六ツ時之認と有之。右五助弟へ直ニ面会いたし、様子も承候処、庄三郎義者廿一日昼方出立之由也。併道中滞可有之由咄申候。

右吉左右ニ付家内大悦。先能右衛門方へ内々為知遣候処、能右衛門足痛之由ニ而バ、早速来。中村や庄助早速聞付見舞ニ出、有馬やも早

速来。

一、同夜四半頃、勘ヶ由左衛門・伊右衛門・安左衛門等来。宮之助義町方^ニ居合、勘ヶ由左衛門^方右吉事咄候処、早速見舞^ニ出候由^{ニ而}、酒・肴持参也。座敷^{ニ而}面会。酒出^シ種々咄、深更^ニ罷歸候。

廿五日 快晴

神酒献。

一、下生政太方へ呼^ニ遣^シ候処、早速^ニ来。内沙汰^之趣為申聞、夫^ニ付候^而も、拝借^之義整候様頼候処、今朝傳神方へも参り咄合候積^り之処、留守^{ニ而}罷歸候由咄也。

一、今早朝、神野伊右衛門来。五助^方同人方へ書面有之、承知候由也。

五助弟、今早朝参候^与申事。

一、いなり惣助見舞^ニ来。

一、根三田勘ヶ由左衛門・庄右衛門・太右衛門忰等来。

一、八時頃中町名主庄三郎歸村^之由故、早速人遣候処、只今参着^ニ付可申上^下存候由^{ニ而}、猿田由膳^方之書面相届候。帰職被仰付候^ニ相

違無之候。

尚々坂戸へも別紙遣シ可申義^ニ御座候^{得共}、取急候間、書面着致し候ハ、早々御沙汰被下候様、奉願候。以上。

一筆啓上仕候。嚴冬御坐候処、被成御揃御安泰被成御座奉賀候。然^者御願筋^之義、一昨廿日窺^ニ罷出候処、明後日伺^ニ出候様被仰聞候間、帰宿仕候処、昨廿一日朝御呼出^{ニ而}、摂津守様御直^ニ、社中願^之通り帰職被仰付、則別紙御渡^之書面相添差上候。御披見^之上御安心可被下候。折能庄三郎帰村^{ニ付}、早速奉得貴意候。御惣宮様へも宜被仰上可被下候。猶委細^之義^者帰村^{之上}可被咄候。右早々如此^ニ御坐候。恐々謹言。

十二月廿二日

猿田 由膳

鹿嶋丹下様

一、宮之助来。右庄三郎帰村承り、帰職見舞^ニ出候也。酒・肴持参也。

一、大宮司方使、正一郎来。只今在府藤四郎祢宜方書面至来。御帰職^之義申来候間、先御内々御沙汰申上候由口上也。面会^之上挨拶。

忝由申遣ス。

一、同夜五半時頃、會所方兩所之書面到来。御達申候義有之候間、只今會所迄御出可被成由之書面也。右使御藏番女房参候由、甚如何敷存、畢竟社用役人款代官番罷出候而可然存候処、右之次第故代官番呼ニ遣候処、善兵衛参候間、右使如何之訳ニ而藏番女房持参候哉承候処、私共存不申、恐入候由ニ而、夫方立歸り又々同人罷出、會所御用提灯付ケ迎ニ参候間、直様支度い多し、次上下ニ而善兵衛案内ニい多し會所へ罷出候。大宮司・当祢宜、其外年番ニ而者行事祢宜・社僧広徳寺・社用香嶋左中・村田主殿等也。先兩所之前通りへ坐し及挨拶候処、大宮司方御達申升ト被申、切帟被差出候。披見之処、

常州鹿嶋明神

元大行事 鹿嶋丹下

右社中願之通惣大行事帰職申付一生者年頭御礼差出候義、難相成候事

亥十二月

右之通り也。披見終り候処、御席へ御進被成候様、大宮司被申候間、席へ着坐。兩所・年番へ及一礼候。大宮司方、是方者御同役之事幾久敷など丁寧ニ被申、其外早速政事向之談も有之。明後日年番引渡候

義、并来年番此方^{ニ而}相勤可然なと被申候処、何^連追^而御挨拶可申と申、一同罷立候。

廿六日 晴

今朝両所へ見舞候。先桜山へ参り面会^之処、盃・吸物出。扱是迄能々心配^ニ預^リ候段及挨拶候。猶又来年番^之義^者、自分義久敷中絶、勝手も分り不申候間、何分御両所へ御頼申度宜敷御申合、御引受頼入候由申入候処、右^者御尤^ニ致承知候間、何分東氏と相談^之上、当年拙者勤候事故、是非東氏へ御引受相成候様可然なと被申、猶又此方職料^之義、年番^{ニ而}も十一月中迄^者斟酌いたし外^ニ除^ケ置候處、追々及月廻候^ニ付遣^ヒ拂^ニ差出候。此間中御願^之金十五両^者、是非御預載^ニ相成候様取斗可申。猶又其餘も諸勘定いたし、余分も有之候ハ、御取持申、少々^ニても御渡し申候。手前心得^ニ御座候由、至^而深切らしく被申候。夫方神野へ罷出候処、同断。吸物・盃出、是又年番引受候義頼、御礼出府等^之義及相談候。桜山へも御礼出府^之義、及相談候処、此義^者□迄御急^{ニも}及間敷、何^連来春^{ニ而}可宜なと被申候。

(後略)